みんなでエコライフ

大分・由布両市にとって今年は「リサイクル元年」。四月から稼働する大分市福宗の「リサイクルプラザ」は、ごみ再資源化の拠点と期待されている。大分市ではごみの分別が八から十二に細かくなり、市民にも分別の徹底が求められるようになる。プラスチック、缶・瓶・ペットボトルなどをプラザで選別して再資源化、循環型社会づくりを目指す。一人一人ができる地球環境への貢献、エコライフ。リサイクルやごみの減量に取り組んでいる市民、グループ、事業所を紹介する。

廃油せっけん作りや啓発に取り組むNPO法人「大分の海と川を守る会」

「環境だけでなく、体にも優しいせっけんです」と話す是永庸子さん（右）とメンバーの一人、中村順子さん

近藤忠志理事長（五七）＝大分市向原西＝

向原西の工房で、廃油を使ったせっけん作りに取り組んでいる。各種イベントでせっけん作り教室も開催。環境意識を高めてもらう啓発活動に力を入れている。

せっけん水は川に流れると二酸化炭素などに分解されるため環境に優しい。工房では、市内の団地などからもらった廃油を使ってせっけんを作っている。廃油せっけんを使うきっかけにしてもらおうと、アロマオイルを混ぜたシャンプーを作るなどの工夫もしており、評判は上々という。

事務局長の是永庸子さん（五三）は「排水口を川だと思って生活してほしい」と呼び掛ける。

「小さな力でも循環型社会の担い手になりたいと思っています。廃油回収の協力をさらに呼び掛けていきたい」と夢を広げている。

リサイクル部品の活用を進める「鶴崎モーターサービス」

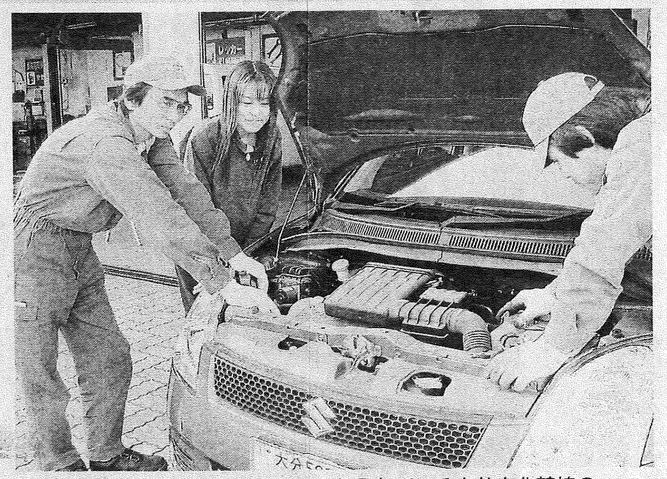
古長裕社長（三三）＝大分市北鶴崎＝

環境を守るため、少しでもできることを―との思いで、二〇〇一年ごろから自動車の修理に「リサイクル部品」を積極的に取り入れている。

活用しているのは、古い部品をメーカーに送り、劣化した部分を新品に交換するなど〝ひと手間〟加えることで、リサイクル品として新たに生まれ変わった部品。

修理の際、適合するリサイクル部品がある場合には「まずリサイクル部品の利用を勧めています」と中鶴道子整備士（三五）。修理費用が安いことや、環境保全の趣旨に賛同できるからと、ほとんどの客が選ぶという。

廃油や鉄など、産業廃棄物の分類と適切な処理も徹底させている。「ごみの減量や河川の浄化など、多くの人に環境への関心を高めてもらうため、一役買えたらいいですね」と古長さん。



リサイクル部品を積極的に取り入れている大分市北鶴崎の「鶴崎モーターサービス」。「新品の部品でなく、まずリサイクル部品を勧めています」と中鶴道子整備士（中央）

呉服のリサイクル販売をしている「和装もりよし」

中古の着物を仕立て直して着こなす、オーナーの清水守さん（右）と妻の由子さん

店主・清水守さん（五六）

＝大分市光吉新町＝

「もったいない」から生まれた店「和装もりよし」。二〇〇二年の創業以来、約四千点の着物と小物を売り上げたが、実は全部リサイクル品。とほいえ清水さんは老舗呉服店出身で、本物の目利きだ。

「着物文化はリサイクル文化。昔は何度も仕立て直し、果てはぞうきんになるまで使ったものです」という。

呉服店時代、「着物文化は廃れてしまうのか」と嘆いた。「押し入れに眠ったままの着物を安く提供しては」―客の一言で始めたリサイクル。新品より二けた安い中古品が飛ぶように売れていく。仕立て直して着る人、手芸の材料にする人。

「お客さんの口から必ず出る。着ないからと捨ててしまうのは、もったいないですよねと。〝着物の心〟は健在です」。妻の由子さん（五六）が笑顔で言った。

ごみの減量や堆肥化を実践する「生ごみ110番 豊の国」

生ごみから作った堆肥をまく松田教子さん。庭の木々や果物も生き生き

代表・松田教子さん（六三）

＝大分市上野南＝

「できることから」を実践している松田さん。「次の世代の子どもたちにきれいな自然を残せるように」と、家庭や地域で省エネやリサイクルに取り組んでいる。

県地球温暖化防止活動推進員や市クリーン推進員などを務めている。水や電気は節約。買い物はマイバッグで。合成洗剤は使わない。できるだけ車を使わず、歩くことを心掛ける―。生活のいろんな場面で、省ける無駄を省いている。

中でも活躍しているのが、約二年前に出合った、非電動式の酵素を使った生ごみ処理機。これまで生ごみ四百二十九㌔が堆肥（たいひ）に生まれ変わり、松田さん方の庭の草木の成長を手助けしている。「自然を汚さない取り組みが少しずつでも増えていくといいですね」と松田さん。

リサイクルプラザ

スナック菓子の袋、カップめんの容器、食品トレー…。これまでは燃やすしかなかったプラスチックが、資源化できるようになる。

大分市福宗の「リサイクルプラザ」。工場棟では粗大ごみ、プラスチックなどを一日で最大百六十六㌧処理できる。缶・瓶・ペットボトルは収集後、異物を除去し、梱包（こんぽう）して処理業者に回す。四月から稼働する。

プラザ棟は学習、体験、市民への情報発信の場として、工房や再生品の展示スペースが設けられる。愛称は「大分エコライフプラザ」。

施設の建設には大分・由布両市が約二十一億円を投じた。資源としての品質を上げるには、水洗いなど市民の協力も欠かせない。

4月に稼働

大分・由布

携帯でピッ！

【本　社】
097-536-2121　FAX 538-9693
【由布支局】
0977-85-3120　FAX 28-8073